

## 平成29年度 第2回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年9月29日（金） 午前9時50分 開会  
午前11時55分 閉会
- 2 開催場所 南部町農村環境慶全センター 2階 視聴覚室
- 3 出席者  
・町長 佐野 和広          ・教育長 渡辺 拓雄          ・教育長職務代理者 望月 恵美  
・教育委員 入月 一巳      ・教育委員 四條 勉          ・教育委員 芦澤 和彦
- 4 事務局等の出席者  
町長部局 総務課主幹 遠藤一明  
教育委員会事務局  
生涯学習課長 梶原 猛      学校教育課長 市川 隆      学校教育課主幹 渡辺正樹
- 5 協議事項  
(1) 小学校適正配置について  
(2) 中高連携について  
(3) その他
- 6 議事経過の概要  
次のとおり

### 1 開会 望月恵美教育長職務代理者

最も長く最も忙しい2学期が始まって1カ月が経ちました。皆様も行事が多く、お忙しい2学期をお過ごしのことと思います。さらに、来月は選挙がありますし、北朝鮮の情勢も目が離せません。Jアラートに関しては子供たちがそれぞれの学校から通知をいただけてきました。日常生活において私たち一般人にはイメージがわきにくいのですが、学校の先生方にするにすると相手が相手だけに万が一のことを考えて緊張感をもって子供たちに接しているのだと思います。先生方がどんな時にもきちんとした判断力を発揮できるように教育委員会と関係部署が連携をとっていくことが大事だと思います。

本日は多くのご意見により、議論を深めていただきますようご協力ください。

### 2 町長あいさつ

望月委員のご挨拶にもありましたが、行政にとって9月、10月、11月は非常に忙しい時期であり、1年を通してこの期間に様々な決めごとをこなさなくてはならない、1年の結果を出さなければならない大切な時期です。そんな時期と重なる衆議院議員総選挙となりました。選挙とは無関係であるわけにはまいりませんが、私は選挙結果が本町にどんな影響を及ぼすかという視点で考え、行政に臨んでいます。

いよいよ、小学校適正配置についてのアンケート結果が出ました。資料に目を通しましたが、皆さんのそれぞれの思いがある中で、大きな流れとしては、概ね理解が得られたのではないかと感じました。私は、12月までに結論を出すことを表明しておりますので、表明したとおり結論を出します。あとは、いただいたご意見の中で我々にできる

ことを実施し、お子さんや保護者に迷惑をかけない形で統合という方向にもっていければありがたいと思っております。

この会議では、みなさんから非常に意義のあるご意見をいただくことができます。たいへんありがたいですし、私も楽しみにしている会議です。本日もぜひよろしくお願いいたします。

### 3 教育長あいさつ

本日はたいへんお忙しい中をお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

第2回の会議となります。通知でご案内のとおり議題が2つありまして、1つ目は「小学校適正配置について」、2つ目は「中高連携について」です。実は第1回会議もまったく同じ議題を取り上げさせていただきましたが、第1回会議からおよそ3カ月が経過しており、その間に小学校適正配置・中高連携ともに事態が進展しております。方向性、輪郭といったものが、かなり明確になってきています。まずはそういった状況を委員の皆様を確認していただき、現時点で課題は何か、次に何をしていかなければならないかということを議論、又は確認をしていただければ、今後の教育行政の先を照らしていただける会議になるのではないかと思います。今日の総合教育会議がそういう役割を十分に果たせるようにご議論いただきたいと思っております。

本日は限られた時間になりますが、よろしく願いいたします。

### 4 議事

#### (1) 小学校適正配置について

(事務局) これまでの経過及びアンケート結果数値について概要を説明。

(教育長) 各地区、各階層における結果説明がありました。これにつきましてご質問をいただきます。

#### 【質問なし】

(教育長) まず全体では「理解できた」と「ある程度理解できた」の回答が90.6%だったこと、地区別では資料にあるとおりであったことをご確認いただき、次に進んでよろしいでしょうか。

前回会議におきまして、このアンケートについて議論していただき、何のためのアンケートかということをご確認していただきました。教育委員会では、具申内容を理解していただくために丁寧に説明することを方針として取組んできました。そしてこれまでの説明がどれだけ各地区に浸透したかを客観的に掴んで、まだ説明が足りないという結果が出たら再度地区に出向いて説明をすることとし、そのための資料とする調査であることを前回会議でご確認いただいたところです。

その経過から、この結果をどう判断するかご議論いただきたい。まずはこの数字をどう評価するかご意見をいただきたいと思っております。

(芦澤委員) 教育委員会の説明を理解していただいたと判断し、まとめの会議を開催すべきだと思います。ただ、持って行き方として、こういう結果が出たから次のステップにという論法をとらない方がよいのではないのでしょうか。今まで説明してきた経過から、そ

こだけは注意すべきだと思います。

(教育長) 今のご意見について、アンケートの記述を紹介してください。

(事務局) 気になったコメントとしていくつかいただいております。事務局として、具申内容に同意いただいたと判断するものではないと認識しておりますが、今後表現に留意する必要があると感じるコメントでした。すべて万沢地区の方からで、内容は以下のとおりです。

- ①小学校が無くなることには反対。理解イコール統合決定とならぬよう結果の取扱に注意を願う。
- ②町民の同意を得たというかくれみのにしないほしい。
- ③理解確認の必要性わからず。結果利用方法によっては反感を買うことが懸念される。
- ④賛成したということではない。理解できたイコール納得した・賛成したという形にはしないほしい。

(教育長) 4人のご意見が紹介されました。私たちも第1回会議で確認したとおり、浸透の具合を見たいということで実施したのですが、それは地域の方にご理解いただくということで、さらにこれを受けて次にどうしていくかということにつなげていきたいと思っております。それはこの後の議論となります。

まずは数字について委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

(入月委員) 前回会議でアンケート内容を議論して、このような質問内容になりました。原案は同意・不同意の二者択一でしたが、後々のことを考えると結果が厳しいものになるのではないかとということで、理解できたかできなかったか及びその中間という形にした経緯があります。その関係で私たちが期待したような結果になったわけですが、民意はとても大事ですから、それに沿った形で予定どおりやっていく方向性は見えてきたのではないかと思います。万沢地区の結果も思ったよりアンケートの上からは良い結果が出ているということで安堵しています。しかし、気になるのは先程のコメントで、表現をぼかすことで出てくるであろうことが予測されたものですが、それを汲み取ることが求められると思っております。

平成26年に実施したアンケートでは回答率が67.4%でした。前回は対象を絞って残りを抽出する形だったのに対し、今回は全世帯を対象にしたためでしょうか、回答率は38.6%でした。全戸配付で40%近い回答はかなりの有意性はあると思っておりますが、この回答率はどう解釈すべきでしょうか、気になるところです。

(四條委員) アンケートをとったときの考察の仕方は難しいものです。アンケートをとって100%賛成もしくは100%反対という結果はあまり信頼できない、おかしいのではないかと感じる場合があります。校長という立場も経験してきて、様々な立場で意見を聞いた時に、8割の方が賛成ならば先に進んでよいと判断しています。残り2割の方は反対或いはどちらでもよいといった考えを持った方で、必ずいらっしゃるわけです。私はどちらかということ賛成か反対かという形での実施を考えた立場でしたが、こういった質問内容となって、自由記述できる場が用意され、反対という意見の方もおいでになります。賛成の方がそれを上回りました。結論としては、どのようにすればより良い統合ができるかという方向に進めるべきだと思います。

(望月委員) 多くの皆さんが理解できたと回答されています。小さな声にも耳を傾けて進めることができればと思います。

(町長) 全体を見ると、この数字が示すことは統合に向かって進むべきだということだと思います。冒頭申し上げましたように、批判意見はありますが、それに対して応えられるような形で統合にもっていくことができればよいと思います。

(教育長) ありがとうございました。

それでは、まず第1段階として数字をどう評価するかということですが、かなり教育委員会の説明が地域に浸透しているだろうということで、特定の地区や特定の階層にさらに理解を求めるための説明は実施しない、次のステップに進むということをご確認いただきたいと思います。

#### 【異議なし】

(教育長) ありがとうございます。

それでは、次の段階をどのように進めて行くかということにつきまして、事務局より説明させていただきます。

(事務局) その前に、アンケートの記述から以下について紹介させていただきます。

- ①統合時期を早まるべき 27件
- ②1校にすべき 20件
- ③万沢に小学校を残すべき 10件 (すべて万沢地区からの回答)
- ④現状を維持すべき 8件
- ⑤その他町の政策に関する意見

今後、アンケートの結果を携えてこれまでの報告をし、具申書に沿った形で進めさせていただきたい旨をお願いする場を旧町単位で設けることを事務局では考えております。また、できれば万沢地区からのご意見に対する町としての考えをお伝えできればとも考えております。

(教育長) これまでの経過とアンケート結果のまとめの懇談会を開くこと、併せて具申書に盛られた考えをお願いする最後の機会と捉え、旧町単位で会合を持つという提案でした。その時に、万沢地区から多く寄せられた「万沢地区から公共施設が無くなってしまう」ことに対する今後の考えを用意できるようにであればという話でした。

今後の地域での集会の持ち方等についてご意見をいただきたいと思います。

(町長) 万沢小学校の利用方法については、政策的な部分になります。地域を活性化するというご意見も多かったわけですが、実は今、中野の企業誘致の話が進みつつあります。それが決定すれば多くの雇用が生まれます。万沢についてもそういった話があれば良いのですが、学校の跡地利用は難しい要素をはらんでいます。旧町単位で開催すれば必ずこの件に関する意見が数多く出るでしょう。行政とすれば、統合となればその先のことについて当然取組みますが、今の時点でそういったことに関する意見が出ても答え辛いのではないのでしょうか。方向性を打ち出すには時間が必要です。ですからせっかくここまで積み上げてきたものを、ここで紛糾させるわけにはいかないと思うのです。私は12月までに結論を出しますので、そこから議論が始まるという形が望ましいのではないのでしょうか。

(入月委員) 地区懇談会の時に、全体会を持つと説明がありました。

(教育長) 事態が紛糾するような会議にはしないというのが絶対的な条件です。各区の懇談会において、アンケート結果について説明する会を持つということ、また、議会の一般質問でもアンケートを実施して総括する会を考えている旨を答弁しています。

(望月委員) アンケートの結果、このような数字が出て、多くの方の理解をいただいたので具申書に沿って進めますという報告だけでも良いのではないのでしょうか。

(教育長) 望月委員のおっしゃる内容で開催したいと考えています。ただし、当然種々のご意見が出てきます。中には教育委員会部局だけで回答できない内容もあるでしょう。そういった部分については、町長部局に伝えるにとどめざるを得ません。事務局としては、これまでの意見交換の形態をとらず、報告とお願いをさせていただきたいと考えています。

(芦澤委員) 教育委員会で答えられることは、子供に関することだけです。教育委員会として子供に関するご意見に丁寧に答えるということで良いのではないのでしょうか。跡地利用などについては、皆で考える場が設けられることが望ましく、教育委員会で答えられない部分、答えてはいけない部分を明確に分けておけばよいでしょう。会を催すことを表明しているのであれば、開催すべきだと思います。

既に町長に具申しているのです、最終的には町長にご判断いただくことになると思います。

(教育長) 学校教育や子供に関するご意見については、教育委員会として責任を持って答えます。当然、具体的に答えられる部分とそうでない部分があります。これから決めていく必要がある項目については、統合決定後に統合準備委員会を立ち上げて具体的に詰めていくことになります。

町全体のことについては、教育委員会だけで答えられない部分が多いと思いますので、町長部局に持ち帰ることになります。

最終的には、具申内容に沿って進めることを誠心誠意お願いすることが大事な部分になります。

(入月委員) アンケートの結果報告ということであれば、旧町単位で2回開催ではなく全町単位で開催したらどうでしょう。よく万沢地区のことが話題になりますが、別開催だと南部地区の方々の方が万沢地区の意見を聞くことができません。

(教育長) 事務局としては南部・富沢地区で2回開催案でしたが、入月委員のご指摘はたいへんよく理解できます。

(四條委員) 栄地区ではどちらでもよいとお考えの方が多いようだと感じました。内船中区にはそれなりのご意見をお持ちの方がいらっしゃるようですが、出張懇談会は総じて出席者が少なかったです。ですから報告会が開かれても栄地区からの出席者は少ないのではないかと思います。開催するのであれば、活性化センターを会場に1回といった形でよいと思いますが、周知のためというものであるなら、資料を回覧するという程度でよいのではないかと思います。

(芦澤委員) 私も参加者は少ないと予想しています。問題は参加者が納得するか否かだけだと思います。少しでも多くの意見を求めるのであれば、2か所で開催した方が参加を促

せるでしょう。1か所とした場合、文化ホールで開催すれば富沢地区の方の参加が減り、活性化センターで開催すれば南部地区の人には切迫感がないのでやはり参加が減ると思います。そのところは覚悟してやるしかありません。

(望月委員) 私は1か所での開催に賛成です。これまで細かく開催してきましたが、全体で開催することも必要だと思います。

(教育長) 広域開催の発端は、昨年小学校区での懇談会で万沢の議員さんから「万沢地区の声を広く他地区の皆さんに聞いてもらいたい」というご発言でした。広くという意味では町全体という捉え方で考えるのが良いのではないかと感じました。参加者数が少ないのではないかとというご指摘があるわけですが、私たちは広く丁寧な呼びかけをして、ある程度人数が揃うという前提で物事を進めて行かなければなりません。そういった想定で準備したいと思います。

(町長) 町内を回り結果が出たわけですから、この結果を1つの会場で説明すべきだと思います。そして教育委員会の立場で答えられる部分を丁寧に説明していただくことが大事になります。

(教育長) 皆さんからご意見をいただきました。事務局の考えはどうでしょう。

(事務局) 1か所で開催させていただきたいと思います。

(教育長) それでは、多くの方に出席していただけるよう条件を整え、教育に関する部分について誠実な答えを用意して、1か所で開催するということでよろしいでしょうか。

#### 【異議なし】

(教育長) 私たちは、その会議で具申内容に沿って進めることについての最終のお願いと位置付けています。誠実に訴えていきたいと思います。

## (2) 中高連携について

(事務局) 連携型中高一貫教育につきましては、県が示した資料に基づき以下について説明させていただきます。

- ①連携型中高一貫教育校の概要
- ②身延・南部地域における中高連携事業の目標等
- ③平成29年度実施した中高連携の具体的事業
- ④学力の向上に関する連携イメージ
- ⑤平成29年度の推進検討委員会の経過と今後の予定

(教育長) 連携型中高一貫教育について私たちが最も危惧していたのは、進路が身延高校に縛られてしまうことでしたが、県からの説明でそれはないことがわかりました。また、保護者への説明会でも明言していました。

次に効果的な教育についてですが、現状では成果や課題を検証するために連携型の在り方についての試行をしている段階であるという事務局説明があったところです。

私たちに課された大きな課題は、3校による中高連携についての意思決定ということになります。この意思決定に向けて南部町としての意見をまとめていくために第1回総合教育会議から議題として取り上げています。今日は南部町として何を柱としていくか検討していただきます。

(四條委員) 中学校への加配は要請中であり、結論は出ていないとありますが、協定書への記載も決まっていないうことでしょうか。

(事務局) 決まらなければ記載できませんし、決まったとしても記載するかどうかの検討はなされていないようです。町としては、加配が決まれば記載するよう強く求めます。

(教育長) 概要経過についてはご理解いただいたということで、次に最前線にいる南部中学校長の試案を紹介させていただきます。

(事務局) 朗読させていただきます。

①はじめに (管理主事へ伝えたこと)

高校と高校改革・特別支援教育課の連携は密だが、中学校及び義務教育課の関わりが薄い。

②連携型中高一貫教育校としてスタートするための課題

- 1) 常勤1名+ $\alpha$ の加配が必要
- 2) 個人も含め提案・発表などの依頼は避ける。
- 3) 義務教育課、教育事務所のバックアップ
- 4) それぞれ独立した学校であるため、付属中ではないことの確認。
- 5) 移動時間・距離を考慮し、できる範囲の取組みとする。
- 6) 連携型の先進校の実情把握
- 7) 導入後に見直しが必要なので、5年などの期間限定の協定としてはどうか。3年間実施後中間総括をして(4年目)、再度協定を結ぶか決定する。(4年目)決定を周知し最終年を迎える。
- 8) 『地域とともにある学校づくり』を進めるコミュニティ・スクールとしての南部中学校づくりが一番大きな柱であることが大前提である。連携型中高一貫教育校はその次と考えたい。
- 9) 簡便な入試導入については、高校入試の多様化や山梨・静岡両県の進路対策、進路指導をしている南部中学校にとって、非常に悪影響が大きい。絶対に導入しない確認がほしい。
- 10) 中高の人事交流が安易に導入されないようにする。
- 11) 協定を結ぶ前に、保護者や地域への十分な説明が必要である。

南部町・南部町教育委員会では、導入後の県教委との連携、協定書の内容の吟味、中学校への指導も含め、ご判断いただきたい。南部中学校にとって、南部中学校生徒にとってより有益な中高一貫の導入としていただきたい。

(教育長) 南部中学校長試案についてご意見をうかがいます。

(芦澤委員) 試案のとおりだと思います。子供にとってプラスであれば考える余地があると思いますが、入試制度や加配の問題はしっかり解決されなければなりません。一番心配するのは、中学校と高校で教育課程が違う中、中学校で高校の教育課程の先取りが可能とある一方で他の高校への進学も可能であるといった矛盾だらけである点です。そういったことから南部中学校長試案を教育委員会が支持し、強く要請していくことに尽きると思います。最終的にはきちっと協定書に盛り込まないといけません、県がはっきりするかどうかはまずは一つの試金石となるのではないのでしょうか。

(望月委員) 5月に管理主事と話をしたとのことですが、その後何か変わったことがあるのでしょうか。

(教育長) この会議は今年度2回開かれています、義務教育課に変化は見られますか。

(事務局) ありません。

(望月委員) 学校現場のことはよくわからないのですが、校長の強い表現が要求の強さを表していると思いました。身延町教育委員会の考えも聞いて、教育委員会が歩調を合わせていくことが良いのではないかと思います。

(四條委員) 南部中学校がこの事業を進めて行く上で、教員加配が最前提なのだと思います。加配となると義務教育の扱いになって総務課が主管する部分になります。総務課は文部科学省との折衝もあって教員数の決定に関与するのでしょうか、各学校への教員配置は義務教育課の扱いとなります。これまでの動きはどうもちぐはぐで、今回の中高連携はこれまでのシステムには無いものだからではないかと思います。ですからそれを作ってもらえるかどうかというところが鍵だと思います。人間的に保証されれば前向きに進めたいというところなのでしょうが、協定書に載るかどうかわからないという現状では難しい、今のままでは負担が大きすぎて無理だという結論になっているわけですから、3月に人事が決定する前に、加配決定への強い意思を義務教育課なり総務課なりに持っていていただくことが大事だと思います。

(入月委員) 基本的に子供にとってメリットになるかならないかが大きな要素になるのだと思います。メリットが認められる事業が多い一方で、人的な部分は大きな負担増となり、研究指定校となることによる負担といった目に見えない部分の負担もあると思います。そうするとやはり人的支援は欠かせません。そこをクリアしてほしいと思います。

9月4日に地教委連の会長が集まって県教育委員会に出向き、県教育委員会の全課長が出席する中、要望書を提出してきました。今年度の要望には、中高連携に関する中学校への人的支援が入っていませんでしたが、横のつながりを使って要望していくことも有力な手段だと思います。

子供にとってメリットを生かしていけばチャンスだと思います。

(町長) 底辺に高校存続のためということが見えます。総合学科ができて成果の検証が無いまま中高一貫だという話が出ました。今の南部中学校と身延中学校の生徒数は同じくらいですが、南部中学校の生徒の多くは静岡県に進学しています。果たして身延高校が存続できるのか疑問が残ります。南部中学校長試案に何年後かに見直しをすべきというものがありましたが、当然入れるべきだと思います。確かにメリットがあるかもしれませんが、塾に通う子の時間的制約を考えねばなりませんし、静岡・山梨の入試形態も違いますので子供が不利にならないよう配慮する必要もあります。その辺のことを協定の中で認めていただいて、さらに加配がはっきりした場合という条件を設けて議論を進めていただきたい。

(教育長) ご意見ありがとうございました。

まとめとして、南部中学校長試案については支持していくということをご確認いただけます。特に協定書が大きな拘束力を持つこととなりますので、試案の(1. 加配)、(7. 見直し)、(9. 簡便な入試としない)を教育委員会の主張として協定書に盛り込

み、さらには身延町教委と連携し、子供にとって有益な連携になるチャンスと捉えながら一步話を進めて行くということによろしいでしょうか。

【異議なし】

(教育長) 11月に将来構想検討部会と推進検討委員会が予定されていますが、その報告を受けながら第3回総合教育会議における議題としたいと思います。

本会議においていただいたご意見、ご指摘を踏まえながら前に進めるということで確認させていただきたいと思います。

(町長) 一つよろしいでしょうか。先程の試案に川根高校のことが出ていましたが、川根町は南部町よりも人口が少ない町にもかかわらず全国から生徒を集めて高校を存続させています。また、島根県の海士町は小さな島の町ですが高校が一つあり、全国から人を集めて素晴らしい教育を行っています。身延高校を存続させようと思っているのならば、県教委はもっと考えてほしい、知恵を絞ってほしいところです。

(教育長) ありがとうございます。

### (3) その他

(事務局) 第3回総合教育会議の開催日をご検討ください。

(教育長) 中高連携の推進検討委員会が11月中旬に予定されていますので、11月28日に開催したいと思います。

【異議なし】

(教育長) テーマは今回と同じです。小学校適正配置に関する町全体の会議も終了していると思いますので、それぞれの結果を受けて町の方針を決定していただく重要な会議となります。

## 5 閉会 入月一巳委員

本日は大きな課題2点について、多くのご意見をいただきながら会を進行することができ、良かったと思います。

先日、アルカディアフェスタ2017に参加させていただきました。これまでの3つの行事を統合した形で開催されたわけですが、町が一体となった催しだと感じました。生涯学習を含めて町全体で教育が一流になって来つつあるなと感じています。これからも生涯学習、学校教育両面での発展を願います。以上をもちまして総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。